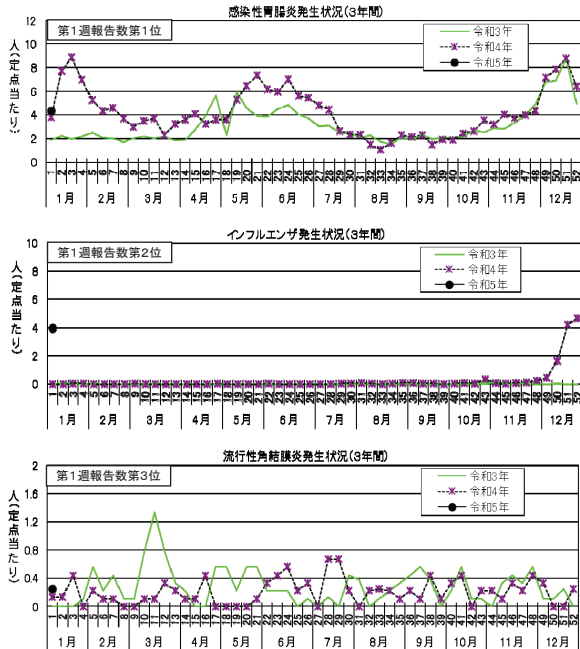


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月2日（月）～令和5年1月8日（日）〔令和5年第1週〕の感染症発生状況

第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.32人と前週（6.42人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.95人と前週（4.65人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.25人と前週（0.25人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

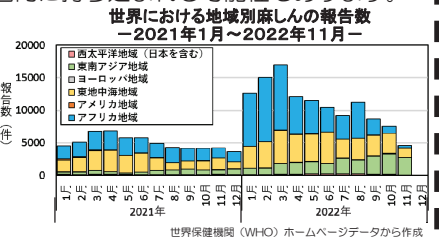


知っていますか？～麻しん（はしか）～

麻しんは、麻しんウイルスにより引き起こされる急性感染症で、高熱や発しん、気道症状等を伴います。感染力が非常に強く、免疫を持っていない方が感染するとほぼ100%発症し、肺炎や脳炎等を合併することもあります。

我が国では、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う渡航制限等により、麻しんの報告数が大幅に減少しました。しかし、2022年以降、世界的に報告数が増加していることから、今後は国内に持ち込まれる可能性もあります。

麻しんは空気感染をするため、ワクチン接種が最も有効な予防法です。定期予防接種の対象の方は、是非早めに接種をしておきましょう。



麻しんとは？

- 【感染経路】 飛沫感染、接触感染、空気感染
- 【潜伏期間】 7～18日間（最長21日間程度）
- 【主な症状】 発熱、咳、鼻汁、発しん、結膜充血など
- 【予防対策】 麻しん含有ワクチン（MRワクチン）の接種
※麻しんの患者に接触した場合、72時間以内にワクチン接種をすることで、発症を予防できる可能性があります。

麻しん・風しん(MR)定期予防接種の対象者

- 【第1期】 生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
 - 【第2期】 小学校入学前の年度1年間（4月1日～翌年3月31日）
- ※麻しん・風しんの第1期及び第2期の定期予防接種を期間内に受けられなかった場合、第1期分は2歳から3歳に至るまでの間、第2期分は小学校1年生の間、任意接種を無料で接種することができます。（事前に手続きが必要となりますので、接種を希望される方は、川崎市予防接種コールセンター（044-200-0142）までご連絡ください。）

川崎市
KAWASAKI CITY

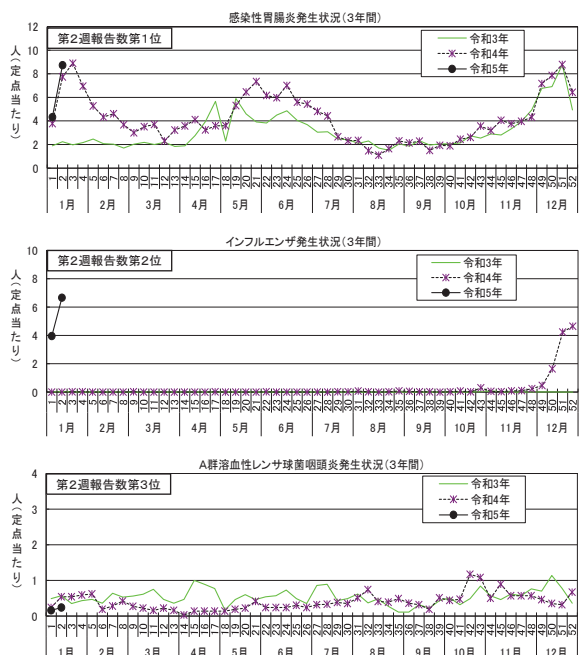
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年1月11日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月9日（月）～令和5年1月15日（日）〔令和5年第2週〕の感染症発生状況

第2週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.73人と前週（4.32人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.66人と前週（3.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.24人と前週（0.16人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



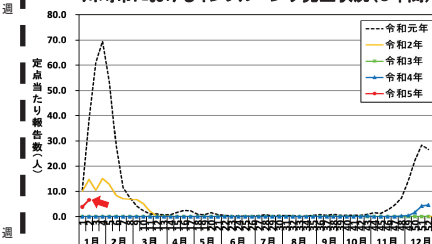
子ども達の間でインフルエンザが流行しています！

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第2週（1月9日～15日）に6.66人となり、先週から増加しました。また、1月13日には、市内において令和元年以来3年ぶりに、インフルエンザによる学級閉鎖が報告され、1月17日までに計9クラスの報告がありました。

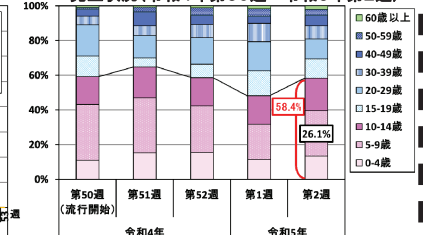
第2週における年齢階級別の割合は、5～9歳が26.1%と最も多く、15歳未満が58.4%と、全体の半数以上を占めています。学校や保育園など、集団生活の場で感染が広がっている可能性もあり、注意が必要です。

インフルエンザだけでなく、新型コロナウイルス感染症の報告も多いため、お子さんの体調不良時は無理をせず、自宅等で休むようにしましょう。また、症状が悪化した場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



川崎市におけるインフルエンザ年齢階級別発生状況（令和4年第50週～令和5年第2週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年1月17日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月16日（月）～令和5年1月22日（日）〔令和5年第3週〕の感染症発生状況

第3週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は9.92人と前週（8.73人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は9.48人と前週（6.66人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.43人と前週（0.24人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



風しんはワクチンで予防できる感染症です。

風しんは、発熱や発しん、リンパ節腫脹を主な症状とするウイルス性の感染症です。特に、風しんへの免疫が不十分な妊婦（妊娠20週頃まで）が感染した場合、眼や心臓、耳等に障害を持つ、先天性風しん症候群（CRS）の子どもが生まれることがあり、大きな問題となっています。

我が国では、風しんの予防及びCRSの発生を防ぐため、公的予防接種を受ける機会がなかった成人男性に対して、無料で抗体検査及びワクチン接種（第5期定期接種）を受けることができるクーポン券を送付しています。さらに、川崎市では、妊娠を希望する女性等に対しても、無料の抗体検査及びワクチン接種費用の一部助成を行っています。抗体価が不十分であると判明した場合は、御自身と子ども達を守るために、直ちにワクチンを接種しましょう。

令和4年度川崎市風しん対策事業

対象者：本市の事業を利用したことがない川崎市民で、次のいずれかに当てはまる方

- ・妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性のパートナー
- ・妊婦のパートナー
- ・昭和34年4月2日～平成元年4月1日の間に生まれた男性

実施期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

実施場所：市内協力医療機関

接種ワクチン：麻しん・風しん混合（MR）ワクチン

風しん抗体検査から予防接種までの流れ

①抗体検査（無料）

②予防接種

（3,200円*）

風しん抗体価が不十分な場合

→

*昭和37年4月2日～昭和54年4月1日の間に生まれた男性は、厚生労働省の追加的対策の対象者となり、免疫を保有していない方は接種費用も無料となります。クーポン券を利用して、抗体検査及びワクチン接種（第5期定期接種）を受けましょう。

※詳しくは令和4年度川崎市風しん対策事業ホームページをご覧ください。



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年1月24日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月23日（月）～令和5年1月29日（日）〔令和5年第4週〕の感染症発生状況

第4週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.30人と前週（9.48人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.51人と前週（9.92人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.35人と前週（0.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



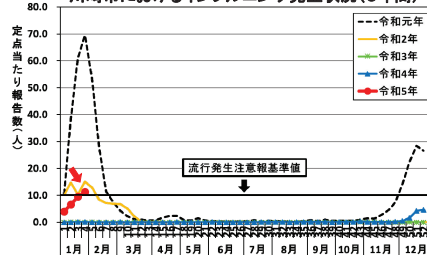
インフルエンザ～流行発生注意報が発令されました！～

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第4週（1月23日～1月29日）に11.30人となり、3シーズンぶりに流行発生注意報基準値（定点当たり10.00人）を超えました。区別では、川崎区が23.50人と最も多く、次いで高津区が17.80人となっています。

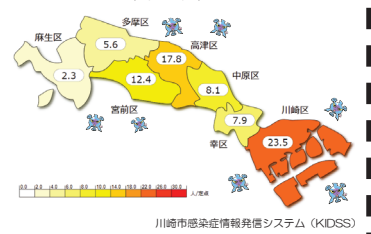
本市のリアルタイムサーベイランスによると、現在、市内の医療機関からの報告は、A型インフルエンザが多くを占めています。また、今シーズンに病原体サーベイランスの一環として健康安全研究所に搬入された検体のうち、計9検体からインフルエンザウイルスが検出され、全てA香港型でした。

インフルエンザの感染拡大を防ぐためにも、咳エチケットやマスクの着用、手指衛生等の予防対策を心がけましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



川崎市におけるインフルエンザ分布マップ（令和5年第4週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年1月31日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月30日（月）～令和5年2月5日（日）〔令和5年第5週〕の感染症発生状況

第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.62人と前週（11.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.86人と前週（8.51人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.35人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



インフルエンザによる学級閉鎖が増えています！

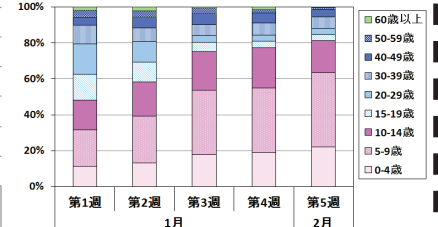
川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第5週（1月30日～2月5日）に12.62人となり、流行発生注意基準値を超えた前週（11.30人）から更に増加しました。年齢階級別では、5～9歳が41.4%と最多で、次いで0～4歳が22.2%であり、15歳未満の報告が全体の報告の81.2%を占めています。また、市内においては、インフルエンザによる第5週の学級閉鎖報告数が、小学校が11件、中学校が12件の計23件となり、今シーズンで最多の報告数となりました。

インフルエンザの流行は、学童を中心に始まり、その後高齢者等へと感染が拡大する傾向にあります。今後の流行状況に注意し、必要に応じてマスクの着用や手指衛生等の感染対策を徹底しましょう。

川崎市におけるインフルエンザ学級閉鎖実施状況（令和5年2月6日時点集計）



川崎市におけるインフルエンザ年齢階級別発生状況（令和5年第1週～令和5年第5週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年2月7日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年2月6日（月）～令和5年2月12日（日）〔令和5年第6週〕の感染症発生状況

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）突発性発しんでした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は10.21人と前週（12.62人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.68人と前週（8.86人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.16人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



梅毒の報告数が増えています！～先天梅毒に御注意を～

川崎市における梅毒の報告数は、令和5年第6週（2月6日～2月12日）までに計14件あり、昨年に引き続き、今年も報告が相次いでいます。

梅毒は、梅毒トレポネマを原因とし、主に性的接触等により粘膜や皮膚の小さな傷から病原体が侵入して感染します。治療せずに放置すると、長期間の経過で、脳や心臓などに重大な合併症がみられることもあります。また、無治療のままでも症状が消失する時期もあり、気付かないうちに他の方へ感染を拡げてしまう恐れもあります。

妊婦が梅毒に感染すると、流産、死産となる場合や、お子さんが梅毒にかかった状態で生まれる（先天梅毒）可能性があります。いずれも、適切な時期に妊婦に対する抗菌薬治療を行うことで、胎児への感染を防ぐことができます。

先天梅毒について

【症状】

出生時は無症状のことが多い。

- ・早期先天梅毒（生後数か月以内に発症）
皮膚症状、肝脾腫、骨軟骨炎等
- ・晚期先天梅毒（生後約2年以降に発症）
実質性角膜炎、感音性難聴、歯牙変形等

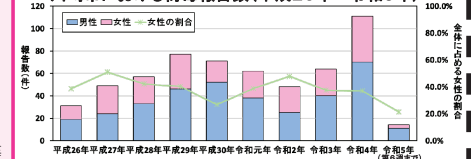
【予防】

母の妊婦健診等による早期発見、早期治療

【治療】

抗菌薬治療

川崎市における梅毒報告数（平成26年～令和5年）



梅毒治療のポイント

- ・自然に症状が消失することがあるため、症状が治まっても自己判断で治療を中断しない。
- ・パートナーも受検し、必要に応じて治療を受ける。

川崎市
KAWASAKI CITY

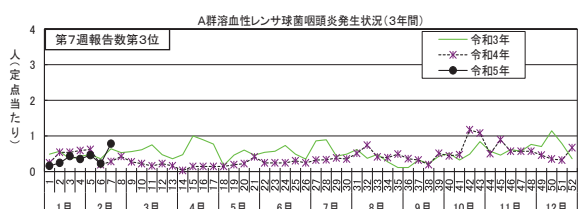
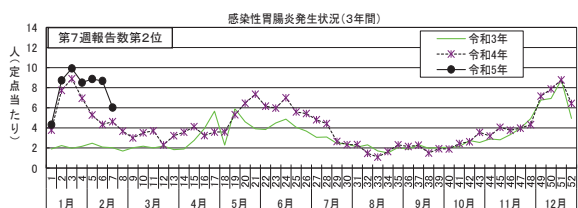
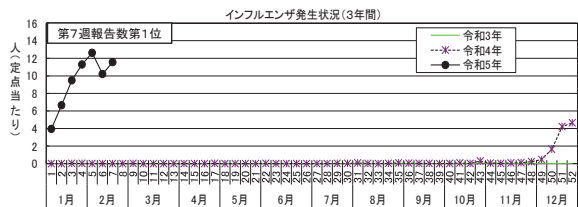
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年2月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年2月13日（月）～令和5年2月19日（日）〔令和5年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.56人と前週（10.21人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.03人と前週（8.68人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.78人と前週（0.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

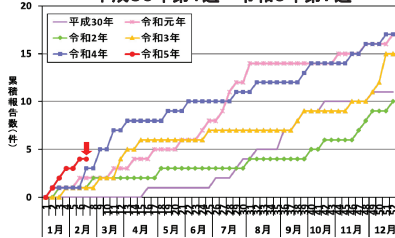


E型肝炎の報告が続いています！

川崎市における令和5年のE型肝炎の報告数は、過去5年で最多であった昨年に引き続き、本年も報告数が多い状況が続いており、令和5年第7週（2月13日～19日）までに、すでに計4件となりました。

E型肝炎は、主にE型肝炎ウイルスに汚染された水や食物を摂取することで感染するとされており、国内においても、生又は加熱不十分な肉等の喫食が感染の原因と推定された事例が複数あります。E型肝炎ウイルスは、加熱により感染性を失うため、豚しゃもやイノシシ肉、鹿肉等は、中心部まで十分に加熱してから食べましょう。

川崎市におけるE型肝炎の累積報告数の推移
～平成30年第1週～令和5年第7週～



E型肝炎とは？

【病原体】

E型肝炎ウイルス

【潜伏期間】

2～9週間（平均6週間）

【主な症状】

発熱、食欲不振、悪心・腹痛等の消化器症状、倦怠感、黄疸など
※不顕性感染が多いが、稀に劇症化する。

【主な推定感染原因】

生又は加熱不十分な肉等の喫食
（豚しゃも、イノシシ肉、鹿肉等）

【治療法】

対症療法

【予後】

比較的良好であり、自然軽快する例が多い。

※妊婦が感染した場合は劇症化しやすく、致死率が20%に達することがある。



川崎市
KAWASAKI CITY

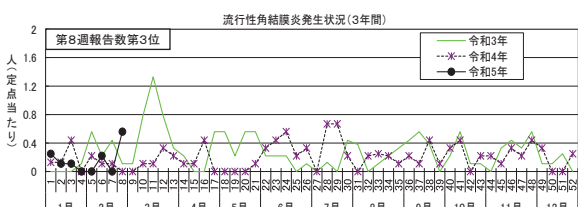
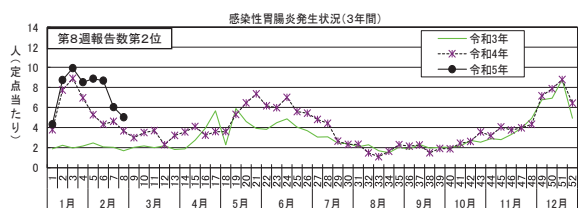
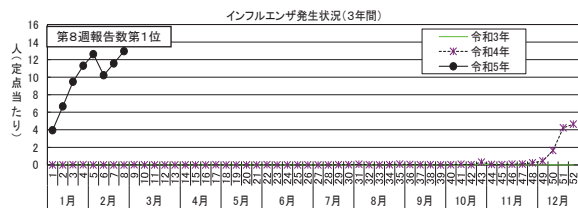
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・
各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年2月21日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年2月20日（月）～令和5年2月26日（日）〔令和5年第8週〕の感染症発生状況

第8週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）流行性角結膜炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.95人と前週（11.56人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.03人と前週（6.03人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週（0.00人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



「子ども予防接種週間」3月1日（水）～3月7日（火）

令和5年3月1日～7日は「子ども予防接種週間」です。予防接種法に基づくお子さんの定期予防接種は、赤ちゃんがお母さんから受け継いだ免疫が薄れてくる時期、病気にかかりやすい年齢や重症化しやすい年齢等に応じて、接種する時期や期間、回数等が定められています。

特に小さいお子さんの予防接種は、遅れると重症化や合併症のリスクにつながります。お子さんの健やかな成長のために、母子健康手帳で予防接種歴を確認し、接種が済んでいない場合は、期間内に確実に接種をしましょう。

子どもを対象とする定期接種で 予防できる感染症

- ◆ロタウイルス感染症
- ◆Hib感染症（ヒブワクチン）
- ◆小児の肺炎球菌感染症（小児用肺炎球菌ワクチン）
- ◆B型肝炎
- ◆ジフテリア、百日せき、ポリオ、破傷風（1期：DPT-IPV、2期：DT）
- ◆結核（BCG）
- ◆麻疹・風しん（MR）
- ◆水痘
- ◆日本脳炎
- ◆ヒトパピローマウイルス感染症（子宮頸がん予防ワクチン）

予防接種を受けるにあたって

予防接種を受けるにあたっては、川崎市の予診票を記入していただく必要があります。また、定期予防接種を無料で受けるためには、次の条件を満たしていることが必要です。

- （1）川崎市に住民登録をしていること
- （2）受けようとする定期予防接種等の対象者に該当していること
- （3）川崎市内の予防接種個別協力医療機関で接種を受けること

問合せ先

川崎市予防接種コールセンター
電話番号：044-200-0142
受付時間：午前8時30分から午後5時15分まで
月曜日から金曜日（祝日、年末年始除く）

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・
各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年2月28日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

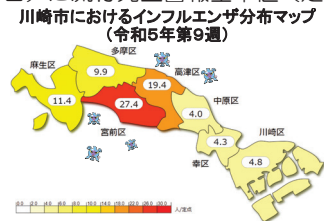
令和5年2月27日（月）～令和5年3月5日（日）〔令和5年第9週〕の感染症発生状況

第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.23人と前週（12.95人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.59人と前週（5.03人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.51人と前週（0.38人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

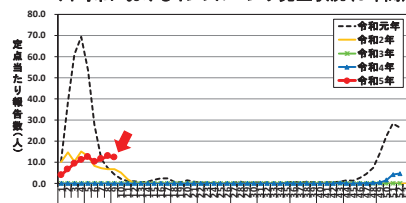


インフルエンザの地域的な流行がみられています！

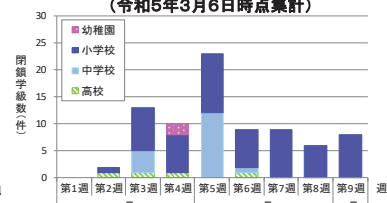
川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第9週（2月27日～3月5日）に12.23人で、引き続き地域的な流行がみられています。特に宮前区では、第8週（2月20日～26日）に流行発生警報基準値（定点当たり30.00人）を超え、第9週も27.40人でした。また、第9週のインフルエンザによる学級閉鎖の報告数も、宮前区の小学校が8件中計6件と最も多くなっています。お子さんの体調には十分に注意し、調子が悪いようであれば自宅等で休息をとるように心がけましょう。



川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



川崎市内の学校等における学級閉鎖実施状況（令和5年3月6日時点集計）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和5年3月7日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年3月6日（月）～令和5年3月12日（日）〔令和5年第10週〕の感染症発生状況

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は17.05人と前週（12.23人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.08人と前週（4.59人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.51人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

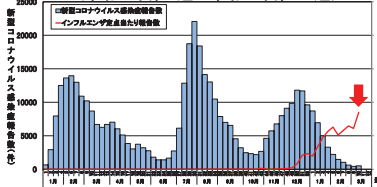


マスクの着用は個人の判断が基本に！

新型コロナウイルス感染症対策の一環として行われていた「マスク着用」の考え方が、令和5年3月13日から見直されました。従来は、屋外では原則不要、屋内では原則着用とされていましたが、今後は個人の判断が基本となります。ただし、周囲の方に感染を広げないために、特に医療機関への受診時や面会時、高齢者施設を訪問する時などは、常にマスクの着用をお願いいたします。なお、高齢者や基礎疾患を有する方、妊婦など重症化リスクの高い方が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に混雑した場所に行く時には、御自身を感染から守るためにマスクの着用が推奨されます。

川崎市内においてはインフルエンザの流行がみられています。必要に応じてマスクを着用しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザ発生状況（令和4年第1週～令和5年第10週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和5年3月14日作成

マスクの着用が効果的な場面

医療機関を受診する時
などを訪問する時

医療機関や高齢者施設
などを訪問する時

混雑した電車やバスに
乗車する時*

重症化リスクの高い方が新型コロナウイルス感染症の流行期に混雑した場所に行く時

*おれやわ全員が可能なものを除く。

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年3月13日（月）～令和5年3月19日（日）〔令和5年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.03人と前週（17.05人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.27人と前週（5.08人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.30人と前週（0.38人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



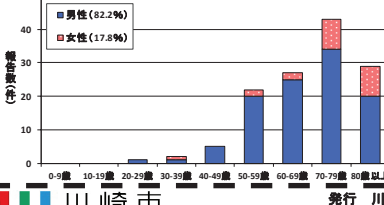
こんな病気にも注意しましょう！～レジオネラ症～

レジオネラ症は、水中や土壌中など自然界に広く生息するレジオネラ属菌を原因とする細菌感染症です。主な病型として、重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性で自然に改善するポンティアック熱が知られています。報告の大部分を占めるレジオネラ肺炎は、38℃以上の高熱、咳や倦怠感に加え、意識障害等の中枢神経症状を伴い重症化することもあります。

川崎市における過去5年間のレジオネラ症の発生状況は、男性が82.2%と多く、特に50歳代以上が報告の大部分を占めています。高齢者は肺炎を起こす危険性が通常より高く、急速に症状が進行し、命にかかわることもあります。適切なタイミングでの抗菌薬の使用が治療のポイントとなりますので、早期診断のためにも、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるレジオネラ症性別・年齢階級別発生状況

～平成30年第1週～令和5年第11週～



レジオネラ症とは？

- 【主な症状】
 - ・レジオネラ肺炎
発熱、咳、呼吸困難、意識障害、下痢等
 - ・ポンティアック熱（肺炎にならない自然治癒型）
突然の発熱、インフルエンザ様症状等
- 【潜伏期間】
 - ・2～10日間
- 【感染経路】
 - ・レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル（空気中に浮遊している粒子）を吸い込むことにより感染
 - ※人から人に感染することはありません。
 - ※浴槽のお湯や加湿器の水等は新しいものを使用し、清潔を保ちましょう。また、高圧洗浄等、エアロゾルが発生する作業ではマスクを着用しましょう。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年3月22日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年3月20日（月）～令和5年3月26日（日）〔令和5年第12週〕の感染症発生状況

第12週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）流行性角結膜炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.90人と前週（12.03人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.05人と前週（5.27人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



新年度に向けて、今一度「感染症対策」の確認を！

新年度を迎え、学校や保育園等で新たに集団生活が始まると、人との接触の機会が増加し、感染症にかかるリスクも高くなります。感染症を防ぐには、感染源を断つ、感染経路を遮断する、免疫力を向上させることが重要です。感染経路は、感染源となる病原体の種類により異なるため、周囲の流行状況を把握した上で、適切な対策を実施することが大切です。また、ワクチン接種による免疫力の獲得も、感染症の予防には非常に有効です。

お子さんの体調が悪い場合は、早期診断や早期治療のためにも、無理をせず早めに医療機関を受診しましょう。

感染経路別対策

【飛沫感染】（主な病原体：A群溶血性レンサ球菌、インフルエンザウイルス等）

- ・咳エチケット
- ・体調不良の大人はマスクを着用

【空気感染】（主な病原体：麻疹ウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス等）

- ・部屋の換気
- ・ワクチン接種

【接触感染】（主な病原体：ノロウイルス、アデノウイルス等）

- ・手指衛生
- ・家庭でもタオル等の共用を避ける。
- ・吐物やおむつ等の適切な処理

【経口感染】（主な病原体：腸管出血性大腸菌、黄色ブドウ球菌等）

- ・食材の適切な温度管理
- ・食材の十分な加熱
- ・調理器具の洗浄

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まより支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年3月28日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年3月27日（月）～令和5年4月2日（日）〔令和5年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は4.51人と前週（6.90人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.27人と前週（4.05人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.51人と前週（0.35人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



9価のHPVワクチンが定期接種に導入されました！

我が国では、令和5年4月から、9価のヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンが定期接種に導入されました。

HPVは子宮頸がんなどの原因ウイルスで、女性の多くが一生涯に一度は感染するといわれています。HPVには多くの型がありますが、特に16型及び18型は、子宮頸がんの主要な原因となります。HPVワクチンは、含まれるHPVの型の数により、現在は2価、4価及び9価の3種類がありますが、いずれも16型及び18型を含みます。さらに9価のワクチンは、他に5つの型による子宮頸がんも予防することができます。

ワクチンの種類や年齢により、接種のタイミングや回数が異なるため、事前にホームページなどで確認しましょう。

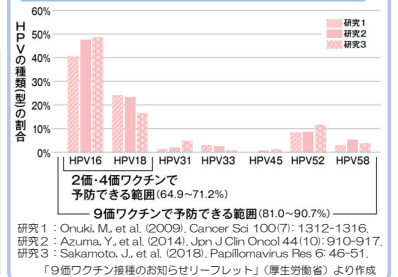
川崎市HPVワクチン接種事業について

対象者：接種日時時点で川崎市に住民登録がある、
小学校6年生相当～高校1年生相当の女子*
※対象年齢を過ぎた方であっても、平成9年4月2日以降に生まれた女性は、令和7年3月31日まで対象となります。

実施場所：市内の予防接種個別協力医療機関
接種ワクチン：HPVワクチン（2価、4価及び9価）
接種費用：無料

*詳細は川崎市ホームページ「ヒトパピローマウイルス感染症（HPVワクチン）の予防接種について」をご覧ください。

日本人女性の子宮頸がんにおけるHPVの種類（型）の割合と、ワクチンで予防できる範囲



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区域所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年4月4日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年4月3日（月）～令和5年4月9日（日）〔令和5年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）流行性角結膜炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.57人と前週（4.51人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.41人と前週（3.27人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.78人と前週（0.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

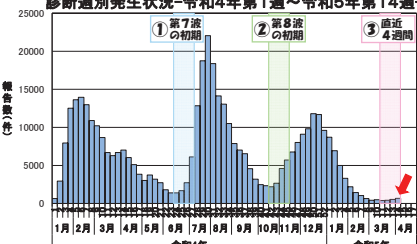


新型コロナウイルス感染症～報告数が徐々に増加しています～

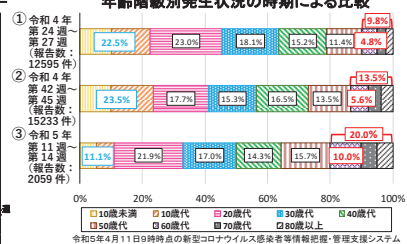
川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和5年3月上旬以降は毎週500件未満で推移していましたが、第13週（3月27日～4月2日）に543件、第14週（4月3日～9日）に695件と、4月に入り徐々に増加しています。直近4週間を、第7波及び第8波の初期と比較すると、10歳未満の小児及び10歳代の割合は減少していますが、60歳以上は第7波の9.8%から20.0%まで増加しています。特に60歳代では、第7波の4.8%、第8波の5.6%から10.0%と大きく増加しました。

4月末からの大型連休に向けて旅行や帰省等を計画されている方は、体調が悪い場合には無理をしないようにしましょう。また、咳や鼻汁など呼吸器症状がある場合は、飛沫感染を防ぐためにもマスクの着用をお願いします。

川崎市における新型コロナウイルス感染症 診断週別発生状況 令和4年第1週～令和5年第14週



川崎市における新型コロナウイルス感染症 年齢階級別発生状況の時期による比較



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区域所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年4月11日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

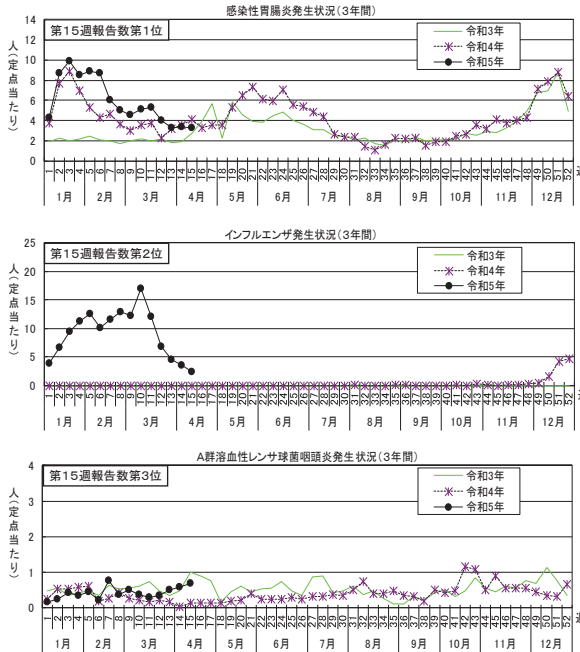
令和5年4月10日（月）～令和5年4月16日（日）〔令和5年第15週〕の感染症発生状況

第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.32人と前週（3.41人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.36人と前週（3.57人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.70人と前週（0.59人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



カンピロバクター食中毒に注意しましょう！

カンピロバクターは、我が国における細菌性食中毒の主要な原因の1つであり、主に鶏や牛等の家さん・家畜が保菌しています。カンピロバクター食中毒の一般的な症状は、下痢や腹痛、発熱等で、通常は1週間ほどで軽快します。死亡例や重篤例はまれですが、乳幼児や高齢者等では重症化する危険性もあります。また、カンピロバクターに感染した数週間後に、手足の麻痺や呼吸困難等を起こすギラン・バレー症候群を発症することもあり、注意が必要です。

カンピロバクターの主な感染源には、生や加熱不十分な鶏肉、調理器具等の取扱い不備による二次汚染があります。肉類は中心部まで十分に加熱（中心部を75℃以上で1分以上）し、他の食品と調理器具や容器を分ける等、予防対策の徹底を心がけましょう。

カンピロバクター食中毒とは

- 【主な症状】
下痢、腹痛、発熱、嘔気、嘔吐等
- 【潜伏期間】
1～7日間
- 【感染経路】
経口感染
- 【主な推定感染源】
生や加熱不十分な鶏肉、調理器具等の取扱い不備による二次汚染
- 【合併症】
ギラン・バレー症候群（頻度はまれ）
呼吸筋麻痺を起こし、人工呼吸器を装着する例もあります。

食中毒の予防対策



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年4月18日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

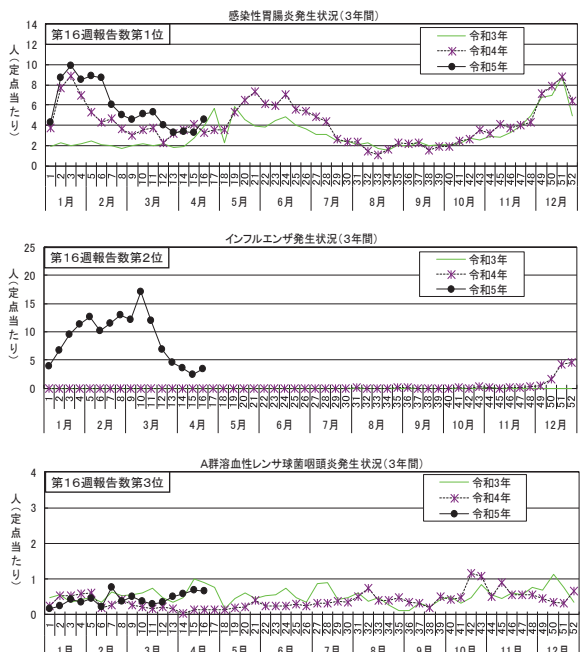
令和5年4月17日（月）～令和5年4月23日（日）〔令和5年第16週〕の感染症発生状況

第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.59人と前週（3.32人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.49人と前週（2.36人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.70人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



海外で注意すべき感染症と予防対策について

今年のゴールデンウィークは、昨年と比べ海外へ渡航される方が大幅に増加することが予想されます。海外においては、国内ではみられない感染症が流行している場合もあり、思わぬ感染症に罹患することもあります。病原体の種類により、食べ物や水を介してうつるもの、動物からうつるもの、蚊やマダニなどが媒介するものなど様々な感染経路があり、予防対策も異なります。

海外旅行中に感染症にかかることなく、安全で快適に旅行するためにも、海外で注意すべき感染症及びその予防対策を事前に確認しましょう。

食べ物や水を介してうつる感染症

細菌性赤痢、腸チフス、腸管出血性大腸菌感染症、コレラ、A型肝炎、E型肝炎等

【予防対策】

- ・手洗いなどの手衛生をこまめに行う。
- ・生水、氷、カットフルーツ等の喫食は避ける。
- ・食事は十分に火の通ったものを食べる。

動物からうつる感染症

鳥インフルエンザ、狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）等

【予防対策】

- ・動物にはむやみに手を出さず、近寄らない。
- ・動物に触れた場合、手洗い等の手衛生を心がける。

蚊やマダニなどが媒介する感染症

デング熱、マラリア、ジカウイルス感染症、チクングニア熱等

【予防対策】

- ・長袖や長ズボンを着用する。
- ・虫よけ剤（ディート等の成分を含む）を使用する。
- ・網戸等の設備が整った宿泊施設を利用する。

その他、海外で注意すべき感染症

麻疹、風しん、ポリオ、新型コロナウイルス感染症等

【予防対策】

- ・ワクチンを接種する。
- ・何らかの症状がある方との濃厚接触を避ける。
- ・必要に応じて、マスクを着用する。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年4月25日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年4月24日（月）～4月30日（日）〔第17週〕及び5月1日（月）～5月7日（日）〔第18週〕の感染症発生状況

第17週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
第18週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
第18週の感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、7.3人と前週（4.84人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
第18週のインフルエンザの定点当たり患者報告数は、1.67人と前週（2.62人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～感染症法上の位置づけが5類に～

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、法に基づき2類相当の感染症に位置づけられていましたが、5月8日から5類感染症の定点把握疾患（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）となりました。これに伴い、今まで実施されていた外出制限の要請や医療費の全額公費負担等の措置は廃止となりました。治療費は一部自己負担となりますが、新型コロナウイルス治療薬の費用は高額であるため9月末までは無料です。

5類に移行したとはいえ、新型コロナウイルスの感染力や病原性が変わるわけではありません。引き続き、体調が悪い場合は無理をせずに自宅で療養し、必要に応じてマスク着用や換気等の感染対策を行いましょう。

【新型コロナウイルス感染症の療養期間】

- ・発症後5日間は外出を控えることを推奨
- ・発症後10日間はウイルスを排出する可能性があるため、マスクを着用するとともに、ハイリスク者との接触を控えることを推奨

発熱時や療養中の体調相談は、医療機関又はコールセンターへ

コールセンター電話番号：044-200-0730
受付時間：24時間・年中無休

5月8日以降の主な変更点

	変更前 (5/7まで)	変更後 (5/8から)
患者数の公表	全ての患者数を毎日公表	指定した医療機関の1週間分の患者数を週1回公表
医療機関	特定の医療機関が対応	幅広い医療機関で対応
感染対策等	法に基づく入院措置・勧告、外出自粛要請	個人の選択を尊重
医療費	公費負担	一部自己負担 (新型コロナウイルス治療薬は9月末まで全額公費負担)
ワクチン接種	無料	令和5年度も引き続き無料 (接種対象者は時期によって異なる。)

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年5月9日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年5月8日（月）～令和5年5月14日（日）〔令和5年第19週〕の感染症発生状況

第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）新型コロナウイルス感染症 3）インフルエンザでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、4.43人と前週（3.73人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、3.11人でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は、1.52人と前週（1.67人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



海外からの麻しん（はしか）の輸入例が増えています

令和4年10月に新型コロナウイルス感染症の流行による渡航制限が緩和されて以降、国内への麻しんの輸入例が増加しています。麻しんは感染力が非常に強く、最近では患者と同じ公共交通機関を利用したことで感染した事例も報告されています。免疫のない人が感染するとほぼ100%発症し、重症化すると死亡することもあります。現在国内では麻しんは排除状態にあるため、渡航先での感染例と、その二次感染例のみが報告されています。潜伏期間が長いいため、海外渡航をされた方は、帰国後2週間程度は体調変化に注意が必要です。
麻しんはワクチン接種が最も有効な予防方法です。定期接種の対象の方は確実に接種を受けましょう。

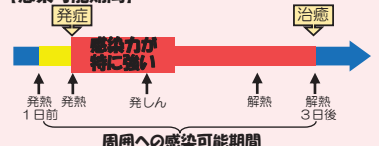
渡航後の注意事項

- ✓ 帰国後2週間程度は、麻しん発症の可能性もあるため、健康状態に注意する。
- ✓ 発熱や発しん等の症状がみられた場合は、医療機関に事前に連絡してから受診する。
- ✓ 医療機関には、帰国後であることを伝える。
- ✓ 受診する際は、可能な限り公共交通機関を使用しないようにする。

麻しんとは？

【感染経路】
空気感染、飛沫感染、接触感染
【潜伏期間】
7～18日間（最長21日間程度）
【主な症状】
発熱、発しん、咳、鼻汁、結膜充血など
【予防方法】
ワクチン接種

【感染可能期間】



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年5月16日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年5月15日（月）～令和5年5月21日（日）〔令和5年第20週〕の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 新型コロナウイルス感染症 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.30人と前週（4.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.20人と前週（3.11人）から増加しました。インフルエンザの定点当たり患者報告数は1.98人と前週（1.52人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



新型コロナワクチン～令和5年春開始接種について～

川崎市では、令和5年5月8日から重症化リスクが高い方（高齢者、基礎疾患を有する方等）及び医療従事者、高齢者施設等の従事者を対象に、新型コロナワクチンの令和5年春開始接種を開始しました。接種券は、オミクロン株対応ワクチン等を接種済の方全員に発送していますので、対象の方は接種を御検討ください。また、オミクロン株対応ワクチン等を未接種の方は、お手元にある券を使用して接種を受けてください。

なお、対象ではない方の追加接種は、9月以降に開始する令和5年秋開始接種での実施を予定しており、5月8日から8月の期間は接種することができませんので御注意ください。

令和5年春開始接種対象者

※原則として接種日に川崎市に住民登録のある方が対象

12歳以上の方

初回接種（1、2回目接種）を終了した以下の方
 ・高齢者の方（65歳以上）
 ・基礎疾患を有する方（12～64歳）
 ・医療機関や高齢者施設等に従事する方

5～11歳の方

初回接種（1、2回目接種）を終了した以下の方
 ・基礎疾患を有する方
 ※基礎疾患のない方でも、5月7日までにオミクロン株対応ワクチンを未接種の方は、引き続き1回の接種が可能です。

初回接種（1回目、2回目接種）は、5月8日以降も引き続き接種することができます。

令和5年春開始接種概要

【実施期間】
令和5年5月8日～8月※

※終了日については、決まり次第お知らせします。

【接種間隔・接種回数】

- ①ファイザー社製、モデルナ社製ワクチン
→前回接種から3か月以上の間隔において1回接種
- ②武田社製ワクチン（ノババックス）
→前回接種から6か月以上の間隔において1回接種

※①の接種を基本としますが、何らかの理由でmRNAワクチンを接種できない方は、②を使用できます。

【接種費用】

無料

【問い合わせ先】

新型コロナウイルスワクチン予約コールセンター
0120-654-478
新型コロナウイルス感染症・ワクチン接種コールセンター
044-200-0730
※詳細は川崎市ホームページをご覧ください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年5月23日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年5月22日（月）～令和5年5月28日（日）〔令和5年第21週〕の感染症発生状況

第21週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 新型コロナウイルス感染症 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.32人と前週（6.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.18人と前週（4.20人）から横ばいでした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.49人と前週（1.98人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



気を付けたい感染症～手足口病・ヘルパンギーナ～

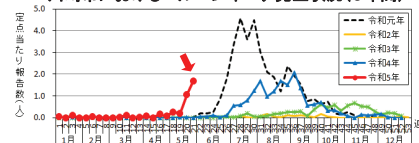
手足口病やヘルパンギーナはエンテロウイルス属のウイルス等を原因とする感染症で、夏季に乳幼児を中心に流行します。新型コロナウイルス感染症の流行が始まった令和2年以降は報告数が大幅に減少していましたが、令和3年の秋頃から再び増え始め、令和4年は夏季に流行がみられました。特に今年は5月からすでにヘルパンギーナの報告数が増加しており、川崎市における令和5年第21週（5月22日～28日）の定点当たり報告数は1.68人でした。

いずれの疾患も飛沫感染や接触感染により感染するため、手洗い等の予防対策はしっかり行いましょう。

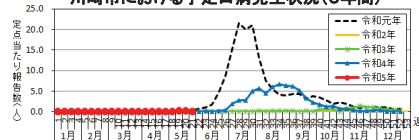
ヘルパンギーナと手足口病の違い

	ヘルパンギーナ	手足口病
感染経路	飛沫感染、接触感染、糞口感染	
潜伏期間	2～4日	3～5日
症状	- 突然の高熱（38～40℃程度）が1～3日間持続（熱性けいれんを伴う場合もあり） - 咽頭痛 - のどの奥に小水疱と小さな白い潰瘍が多発	- 軽度の発熱 - 手のひらや足の裏などに発疹を伴う小さな水疱が多発 - 舌や口の中の粘膜にも口内炎が多発
予後	比較的良好だが、まれに髄膜炎、心筋炎、脳炎等を合併する場合もあり	

川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況（5年間）



川崎市における手足口病発生状況（5年間）



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年5月30日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年5月29日（月）～令和5年6月4日（日）〔令和5年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）新型コロナウイルス感染症 3）インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.57人と前週（6.32人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5.02人と前週（4.18人）から増加しました。インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.46人と前週（2.49人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

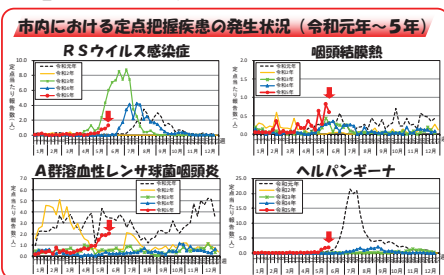
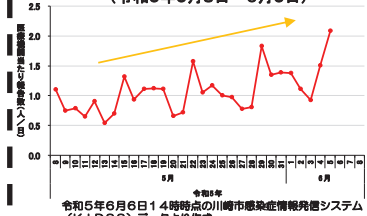


新型コロナウイルス感染症以外の感染症にも注意しましょう！

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日から5類感染症に変更されました。それに伴い、川崎市では市内の流行状況を独自に把握するため、市内医療機関に御協力いただき、新型コロナウイルス感染症のリアルタイムサーベイランスを開始しました。本システムにおける医療機関当たり報告数は、運用開始以降、大幅な増加はみられていないものの、少しずつ増えています。

また、市内においては、新型コロナウイルス感染症だけでなく、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ等についても定点当たり報告数の増加がみられます。特にヘルパンギーナは、通常夏季に流行しますが、今年は例年と比べ早期に報告数が増加しています。地域における感染症の発生状況には、十分注意しましょう。

リアルタイムサーベイランスにおける新型コロナウイルス感染症の医療機関当たり報告数（令和5年5月8日～6月5日）



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和5年6月6日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年6月5日（月）～令和5年6月11日（日）〔令和5年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）新型コロナウイルス感染症 3）ヘルパンギーナでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.86人と前週（6.57人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は6.21人と前週（5.02人）から増加しました。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.41人と前週（1.78人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

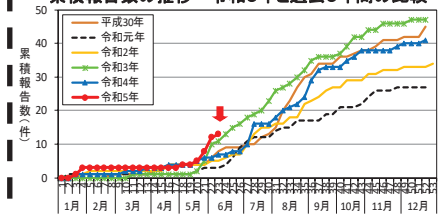


腸管出血性大腸菌感染症に気をつけましょう！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とする感染症です。例年6月中旬頃から患者報告数が増加しますが、川崎市においては、今年は5月下旬から報告数の増加がみられ、第23週（6月5日～11日）までに計13件と、過去5年間と比べて最多となっています。

主な症状は、激しい腹痛、水様性の下痢及び血便ですが、特に小児や高齢者等では、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症等の重篤な合併症を引き起こし、命に関わることもあります。感染経路は、菌に汚染された食品を摂取することで感染する経口感染に加え、手や物を介した二次感染もみられます。生肉や加熱不十分な肉の喫食は避ける、調理器具の使い分け及び洗浄を行う、手指消毒を徹底する等の予防対策を心がけましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症累積報告数の推移（令和5年と過去5年間の比較）



腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

●食中毒予防

- ✓生肉や加熱不十分な肉の喫食は避け、肉類は中心部まで十分に加熱する。（75℃、1分以上）
- ✓生で食べる野菜は流水でよく洗う。
- ✓肉を焼く際には、専用の器具（箸やトングなど）を使用する。
- ✓まな板は、使用の都度洗剤を使用して洗浄する。

●二次感染予防

- ✓食事の前、排便後などは手洗い、手指消毒を徹底する。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和5年6月13日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年6月12日（月）～令和5年6月18日（日）〔令和5年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）ヘルパンギーナ 3）感染性胃腸炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.07人と前週（6.21人）から増加しました。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は6.95人と前週（4.41人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.19人と前週（6.86人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

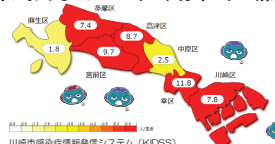


ヘルパンギーナの流行発生警報が発令されました！

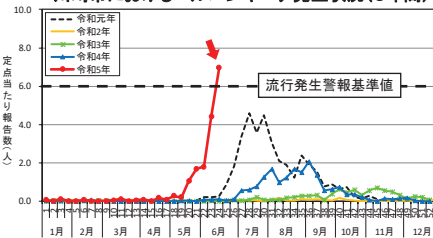
川崎市における令和5年第24週（6月12日～18日）のヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は6.95人と、5週連続で増加し、平成28年以来7年ぶりに流行発生警報基準値（定点当たり6.00人）を超えました。区別では、7区のうち5区で基準値を超えており、幸区が最多となっています。

ヘルパンギーナの主な症状は、突然の高熱（38～40℃程度）や咽頭痛、のどの奥の水疱や潰瘍です。予後は比較的良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎、脳炎等を合併する場合があります。小児が集団で過ごす保育園等では、タオルやおもちゃの共用を避け、おむつ交換後の排泄物は適切に処理を行い、手洗いを徹底して感染の拡大を防ぎましょう。

川崎市におけるヘルパンギーナ分布マップ(第24週)



川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況(5年間)



ヘルパンギーナの予防対策

流水と石けんで十分に手を洗う。 タオルやおもちゃの共用は避ける。
 おむつ交換の際には排泄物を適切に処理する。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和5年6月20日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年6月19日（月）～令和5年6月25日（日）〔令和5年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）ヘルパンギーナ 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は7.65人と前週（6.95人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.43人と前週（7.07人）から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.49人と前週（6.19人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

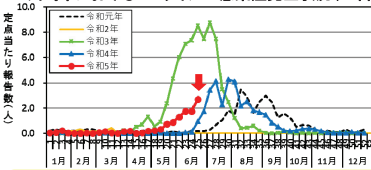


RSウイルス感染症の報告数が徐々に増加しています！

川崎市におけるRSウイルス感染症の定点当たり報告数は、5月中旬から徐々に増加し、令和5年第25週（6月19日～25日）に2.68人となりました。過去10年間で報告数が最多であった令和3年も、5月中旬から7月上旬にかけて報告数の増加がみられており、発生動向には注意が必要です。

RSウイルス感染症は、発熱、咳、鼻汁などを主症状とする急性呼吸器感染症で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の小児がかかるとされています。多くは数日で軽快しますが、生後3か月以内の乳児、早産児や基礎疾患を有する小児等では、肺炎等を起こし重症化する可能性もあります。大人から感染することもありますので、風邪症状がある場合は、乳児との接触はできる限り控えましょう。

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況(5年間)



RSウイルス感染症の重症化リスクの高い方

- ✓ 早産児や生後24か月以下で心肺に基礎疾患を有する小児
- ✓ 神経・筋疾患若しくは免疫不全の基礎疾患を有する小児
- ✓ 生後3か月以内の乳児

RSウイルス感染症とは？

【感染経路】
 飛沫感染（患者の咳やくしゃみなど）
 接触感染（ウイルスの付着した手指や物品など）

【潜伏期間】
 2～8日（典型的には4～6日）

【症状及び経過】
 発熱・咳・鼻汁などの風邪様症状
 ＊多くは軽症で済みますが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状が出現し、肺炎等を起こす小児もいます。

川崎市
KAWASAKI CITY

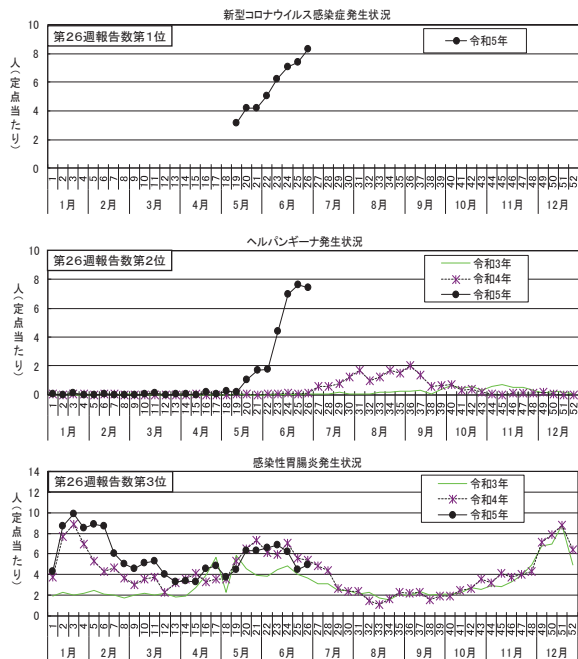
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和5年6月27日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年6月26日（月）～令和5年7月2日（日）〔令和5年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) ヘルパンギーナ 3) 感染性胃腸炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は8.33人と前週（7.43人）から増加しました。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は7.46人と前週（7.65人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.97人と前週（4.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

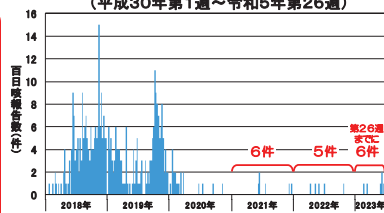


今、気をつけたい感染症～百日咳～

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作等を特徴とする感染症で、2～3か月の間、発作性の咳が継続します。川崎市における報告数は、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった令和2年以降、大幅に減少していましたが、令和5年は第26週（6月26日～7月2日）までに計6件の報告があり、すでに昨年1年間の報告数を上回っています。

百日咳は、年齢を問わず感染する疾患ですが、生後6か月未満の乳児がかかる、呼吸困難等の重篤な症状が現れることがあり、死亡する可能性もあります。ワクチンで予防できる疾患であるため、定期予防接種を期間内に忘れずに接種しましょう。

川崎市における百日咳の発生状況
（平成30年第1週～令和5年第26週）



百日咳とは

【感染経路】
咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【経過】
①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
②痙攣期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る咳発作がみられる。
③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が継続する。

【合併症】
肺炎、脳炎等

【予防方法】
百日咳含有ワクチンの接種（DPT-IPVなど）



百日咳含有ワクチンの定期接種スケジュール

- ・初回接種 生後2か月～12か月の期間に20日以上（標準的には20日～56日）の間隔を置いて計3回
- ・追加接種 3回目の接種から6か月以上の間隔を置いて1回

川崎市
KAWASAKI CITY

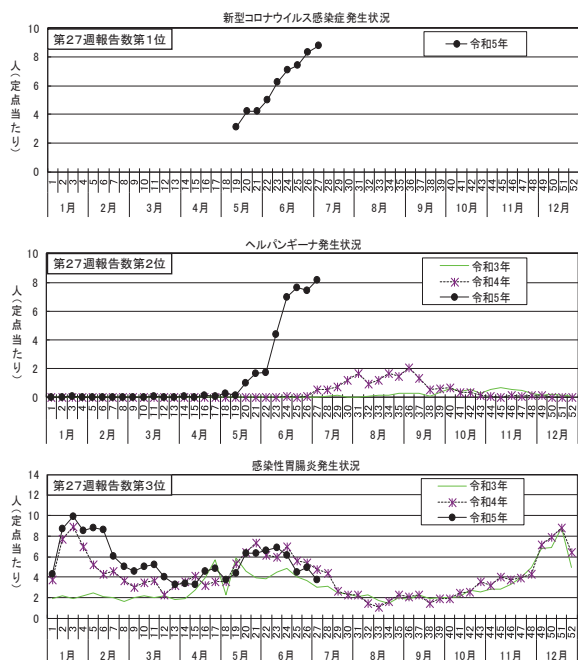
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年7月4日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年7月3日（月）～令和5年7月9日（日）〔令和5年第27週〕の感染症発生状況

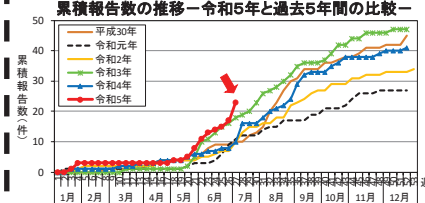
第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) ヘルパンギーナ 3) 感染性胃腸炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は8.75人と前週（8.33人）から横ばいでした。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は8.14人と前週（7.46人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.76人と前週（4.97人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



腸管出血性大腸菌感染症の報告数が急増しています！

川崎市における令和5年第27週（7月3日～7月9日）の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は6件と、1週間当たりの報告数が過去5年間と比較して最多の件数となりました。加熱不十分な肉の喫食が原因と推定される事例も報告されているため、肉を喫食する際には、生や加熱不十分な肉は避け、よく焼いてから食べるように心がけましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症累積報告数の推移～令和5年と過去5年間の比較～



腸管出血性大腸菌感染症とは？

- 【感染経路】
・菌に汚染された食品などによる経口感染
・患者の便を介した二次感染
※食事前や排便後などには手洗いを徹底する。
- 【潜伏期間】
2～14日間（平均3～5日間）
- 【症状】
激しい腹痛、水様性の下痢、血便
- 【合併症】
溶血性尿毒症症候群（HUS）、脳症

【食中毒の予防対策】

一肉幅一

生肉や加熱不十分な肉は食べない。

肉は中心部までよく焼いて食べる。（中心温度75℃、1分以上）

肉を焼く際には、専用のトングや箸を使用する。

一野菜幅一

野菜は流水でよく洗ってから食べましょう！

特に生で食べる野菜や葉菜類はよく洗う。

トマトやきゅうりなど、レタスやサラダ菜など

ブロッコリーやカリフラワーなど、形が複雑な野菜は熱湯で湯がくと効果的

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年7月11日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

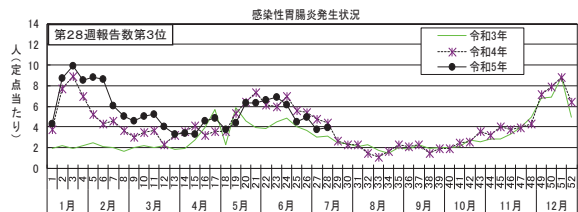
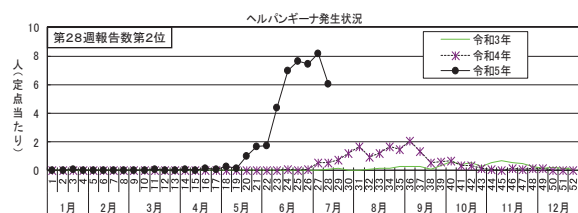
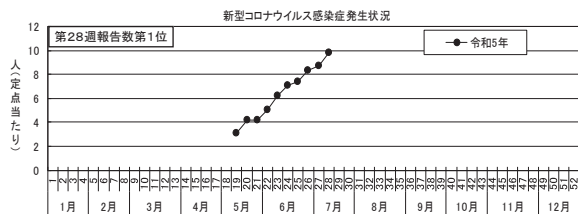
令和5年7月10日（月）～令和5年7月16日（日）〔令和5年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）ヘルパンギーナ 3）感染性胃腸炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は9.79人と前週（8.75人）から増加しました。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は6.08人と前週（8.14人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.95人と前週（3.76人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



こんな病気にも気を付けて！～破傷風～

破傷風は、傷口から侵入した破傷風菌が体内で増殖し、毒素を産生することによって、筋肉の硬直やけいれん等が生じる感染症です。全身性破傷風の場合は、呼吸ができなくなり死に至ることもあります。破傷風菌は土壌に広く分布しているため、刺し傷や火傷などの傷口を土等で汚染されたまま放置すると、感染する危険性が高くなります。特に被災地などで作業をする場合は、厚底の靴等を着用してけがを防ぐことが重要です。

破傷風の予防にはワクチン接種が非常に有効であり、国内では小児を対象とした定期接種の導入により、報告数は激減しました。破傷風含有ワクチンを確実に接種するとともに、けがをした際には傷口をしっかりと洗いましう。

破傷風とは

- 【病原体】破傷風菌（土壌等の環境に広く分布）
- 【感染経路】創傷部位に感染
※人から人に感染することはありません。
- 【潜伏期間】3～21日間（多くは8日以内に発症）
- 【症状】口が開けにくい、嚥下困難、手足や腹部等の筋肉の硬直や痛みを伴うけいれん、頻脈、多汗等



破傷風を予防するためには？

破傷風含有ワクチン(DPT-IPV等)の定期接種

- <第1期>
 - ・初回接種
生後2か月～12か月の期間に20日以上（標準的には20日～56日）の間隔をおいて計3回
 - ・追加接種
3回目の接種から6か月以上の間隔をおいて1回
 - <第2期>
 - ・11～12歳の期間に1回
- 傷口の処置**
- ・傷口を洗浄し、泥や土を取り除く。
 - ・刺し傷等の深い傷は、医師等に相談し消毒を行う。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各市区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年7月19日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

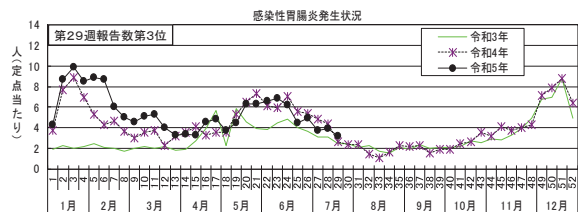
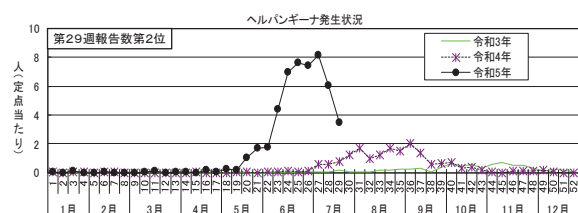
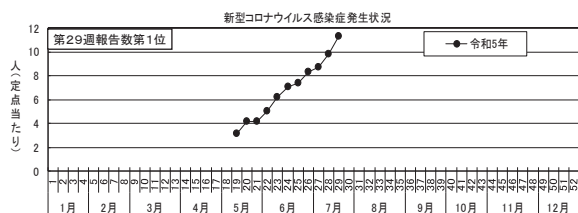
令和5年7月17日（月）～令和5年7月23日（日）〔令和5年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）ヘルパンギーナ 3）感染性胃腸炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は11.31人と前週（9.79人）から増加しました。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.51人と前週（6.08人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.14人と前週（3.95人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



ダニ媒介感染症に注意しましょう！

感染症の中には飛沫や接触による感染だけでなく、病原体を保有するダニに咬まれることにより感染する感染症もあります。国内においては日本紅斑熱やつつが虫病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）等が報告されています。

春から秋にかけては、ダニの活動が盛んになるため、ダニに咬まれる可能性が高くなります。夏休みに山等に行く場合は、長袖・長ズボンを着用し、肌の露出を少なくすることが大切です。また、ダニの付着を完全に防ぐことはできませんが、ディートやイカリジン等のダニに対する虫除け剤もあります。

ダニが付着していることに気が付いた際は、無理に取ろうとせず、医療機関で処置をしてもらいましょう。

ダニから身を守るためには

- 肌の露出を少なくする。
帽子、手袋を着用し、首にはタオルを巻く。
- 長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する。
シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴や靴下の中に入れる。
- 足を完全に覆う靴を履く。
サンダル等は避ける。
- 明るい色の服を着る。
付着したダニが目視で確認しやすくなる。
- 屋外活動後は入浴し、咬まれていないか確認する。

医療機関受診のポイント

- ・ダニに咬まれた後、数週間程度は体調変化に注意し、発熱等の症状がみられた場合は、医療機関を受診する。
- ・医療機関を受診する際は、以下の3つを医師に伝える。
野外出の日付 野外出の場所 発症前の行動

オスウイルスによる心筋炎と診断された患者の報告について

令和5年6月に国内でオスウイルスによる心筋炎の死亡例が報告され、世界で最初のヒトでの発症例となりました。オスウイルスは、これまでヒトを感染させるマダニから検出されており、感染マダニの刺咬により感染する可能性が考えられていますが、感染経路について現時点で確立された知見は得られていません。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各市区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年7月25日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年7月24日（月）～令和5年7月30日（日）〔令和5年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）ヘルパンギーナでした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は14.54人と前週（11.31人）から増加しました。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.00人と前週（3.14人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.70人と前週（3.51人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～報告数が急増しています！～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、令和5年5月中旬から徐々に増加していましたが、第29週（7月17日～23日）以降大幅に増加し、第30週（7月24日～30日）は14.54人となりました。本市が独自に実施している新型コロナウイルス感染症のリアルタイムサーベイランスにおいても、同時期の7月18日から報告数が急増しています。

リアルタイムサーベイランスにおける年齢階級別報告数は、5月以降全ての年齢層において増加がみられますが、特に20歳代から50歳代は他の年代に比べて著明に増加しています。

体調不良時は無理をせず、咳やくしゃみなどの呼吸器症状がみられる場合はマスクを着用する等の予防対策を行い、周囲への感染を防ぎましょう。

リアルタイムサーベイランスにおける

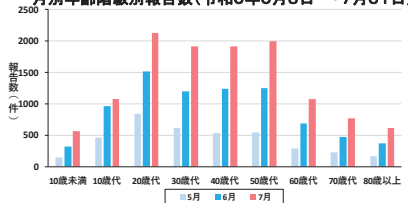
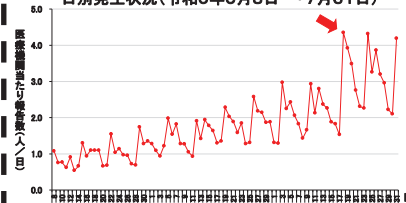
新型コロナウイルス感染症の

日別発生状況（令和5年5月8日～7月31日）

リアルタイムサーベイランスにおける

新型コロナウイルス感染症の

月別年齢階級別報告数（令和5年5月8日～7月31日）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年8月1日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年7月31日（月）～令和5年8月6日（日）〔令和5年第31週〕の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は12.95人と前週（14.54人）から横ばいでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.37人と前週（4.00人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.46人と前週（2.05人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



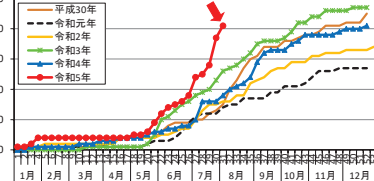
腸管出血性大腸菌感染症～肉を焼く時の注意点～

川崎市における令和5年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は、第31週（令和5年7月31日～8月6日）までに計41件となりました。過去5年間と比較して最多となっており、今年は焼肉の喫食が原因と推定される事例が複数報告されています。

腸管出血性大腸菌による食中毒は、生や加熱不十分な肉の喫食や、菌に汚染された調理器具等を介した経口感染が原因となります。焼肉やバーベキュー等の際には肉をよく焼いてから食べましょう。また、生肉に触れるトング等の調理器具は菌に汚染されている可能性がありますので、食べる時に使用する箸とは必ず使い分けようにしましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症

累積報告数の推移～令和5年と過去5年間の比較～



【焼肉・バーベキュー等を楽しむために～トングとお箸の使い分け～】



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和5年8月8日作成